

101  
ダビデの  
聖徒伝

# 「帰還という 新たな始まり」

サムエル記第二 19～20章

ダビデの帰還

# アウトライン

## 0. イントロダクション

I. 帰還する王を巡る人間模様 19章

II. 分断の根・反逆者たち 20章

聖書朗読：詩篇122篇

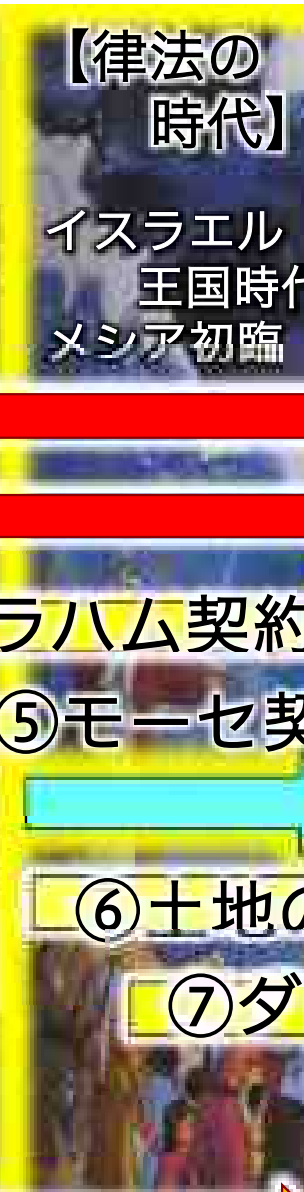
## III. まとめと適用

イスラエルの残れる者

信仰者の歩みに学ぼう



神殿の丘



【無垢の時代】

天地創造

【良心の時代】

墮罪  
~大洪水

【人類統治の時代】

バベルの塔事件

【約束の時代】

アブラハム  
~ヤコブ

【律法の時代】

イスラエル  
王国時代  
メシア初臨

【恵みの時代】

聖霊降臨  
世界宣教  
メシア再臨

【御国の時代】

千年王国  
大審判  
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

どの時代も  
神の約束が礎にある

過去

現在

未来

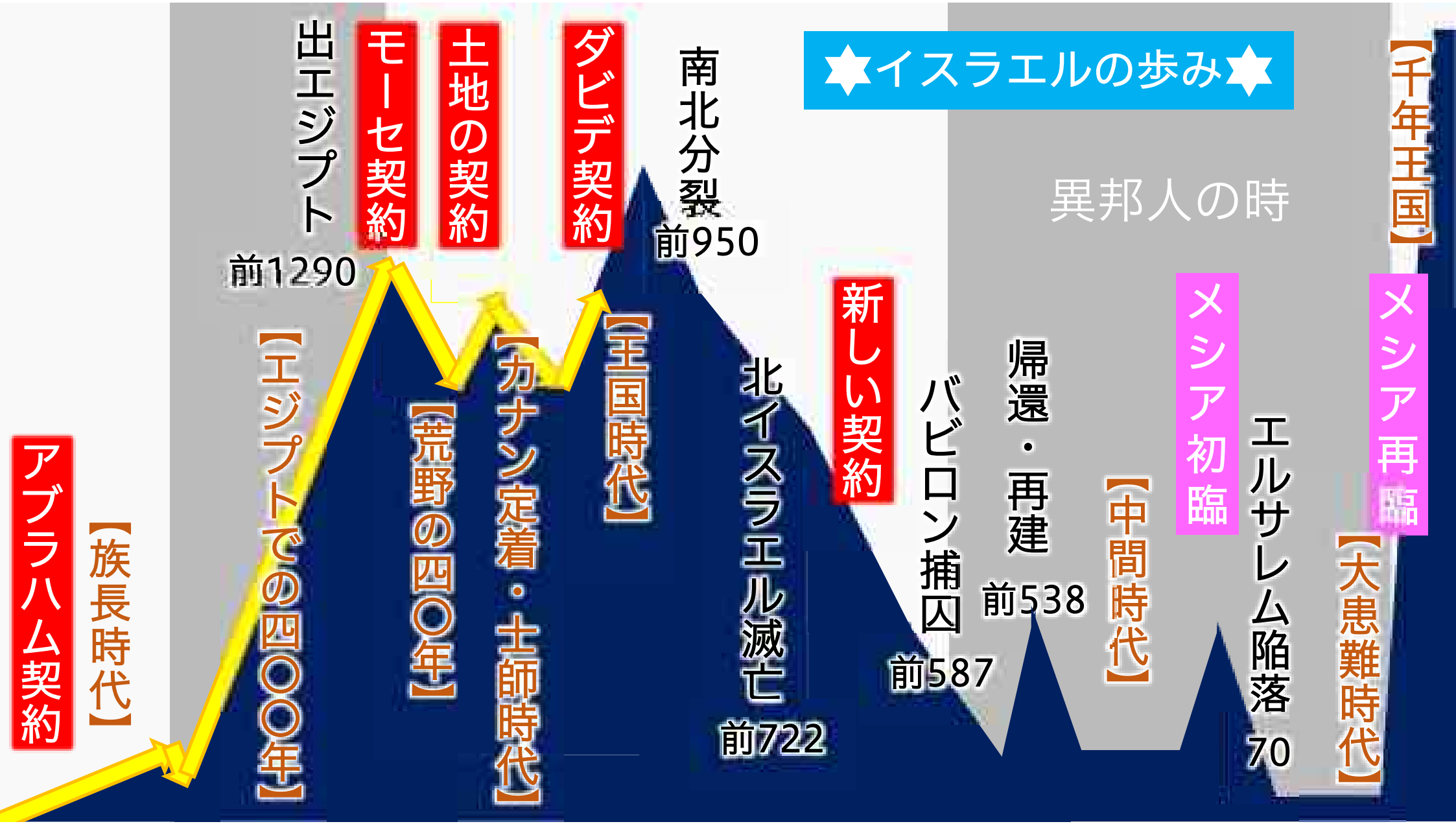
## 【律法時代と教会時代の信者の歩みの違い】

- **律法時代**の原則はシンプル。律法を守れば祝福、破れば呪い。  
→ 死に様や葬られ方が、その人の死後の運命を類推するヒントに。
- **教会時代**、信仰者に求められるのは十字架の道を歩むこと。  
→ 信仰のゆえに、凄惨な死を迎えることも。死に様では分からない。

教会時代の信者に約束されているのは、恥辱や迫害にも関わらず、福音宣教の使命を歩むなら、その働きは支えられるということ。

**旧約聖書からの死後の運命の類推は、現在には適用不能!!**

★イスラエルの歩み★



サムエル記 第二

ダビデ王の治世の正と負

ユダの王	1 : 1~27	サウルとヨナタンの死
	2 : 1~4:12	ユダの王に即位
イスラエルの王	5:1~25	エルサレム遷都 全イスラエルの王に
	6:1~25	神の箱が都に上る
	7:1~29	<b>ダビデ契約</b> の締結
	8:1~9:11	ダビデの治世 領土の拡大・義と憐れみ
失墜する 王の権威	10:1~12:31	アンモンとの戦い ダビデの過ちと悔い改め
	13:1~14:33	悪化する家族問題
	15:1~18:32	アブサロムの謀反 ダビデの都落ち
	19:1~20:26	ダビデの帰還
追記	21:1~22	サウルの氏族の末路・戦士ダビデの引退
	22:1~51	ダビデの歌
	23:1~39	ダビデの遺言 勇士たちの記録
	24:1~25	人口調査 ダビデの罪と罰

## 【ダビデの足取り】

■ダビデ王は、エルサレムを都とし神の箱を担ぎ上げた。神は、ダビデの王家を永遠に守り導き、子孫から、メシアが誕生することを告げられた。→**ダビデ契約**

■周辺国の平定間近のある時、ダビデは、バテ・シェバと姦淫を犯し、夫ウリヤを戦死に見せかけ殺害した。

■ダビデの家には争いが絶えず、三男**アブサロム**は、王権を奪い、都落ちしたダビデだが、多くの助けを得、戦況を覆し、アブサロムの軍に勝利した。アブサロムは将軍ヨアブに討たれ、ダビデは悲嘆した。



ダビデ側

アブサロム側



メフィボシェテ

親友の子



ダビデ王

対立



アブサロム

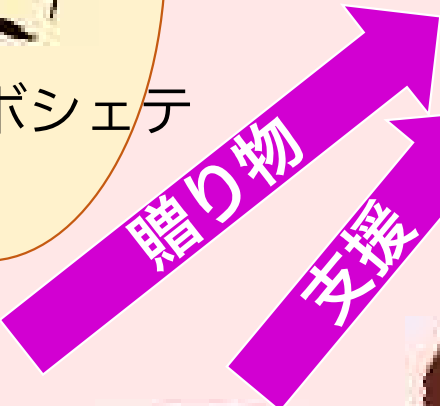
進言



参謀  
アヒトフェル



僕



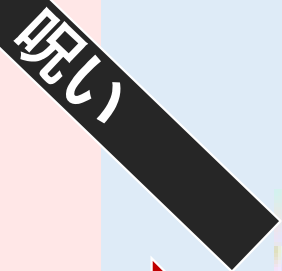
贈り物  
支援



部下



部下



呪い



謀反

殺意



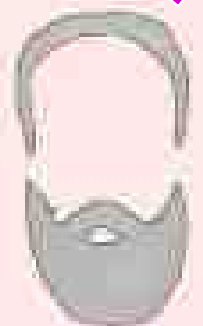
ベニヤミン人  
シムイ



軍の長  
アマサ



僕ツィバ



ギルアデ人  
バルジライ



軍の長  
ヨアブ



隊長  
アビシャイ



従兄弟





# Ⅰ. 帰還する王を巡る人間模様

サムエルⅡ 19章

ヨルダン川中流域

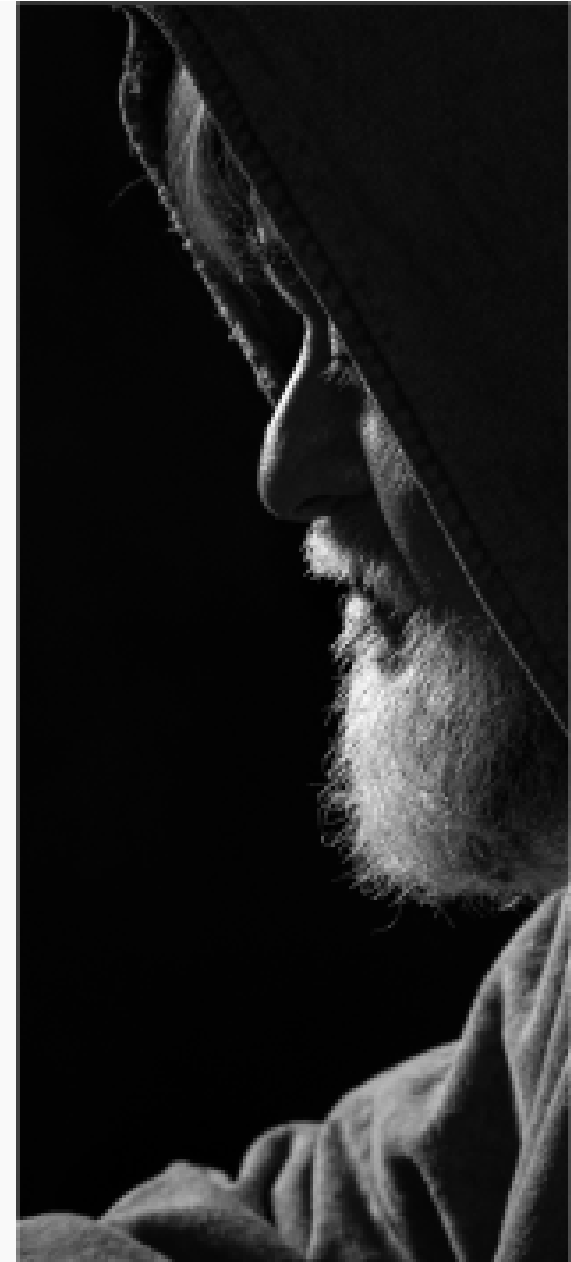
## 【悲嘆に暮れるダビデ】 II サムエル19:1~4

そのようなときに、ヨアブに、「今、王は泣いて、アブサロムのために喪に服しておられる」という知らせがあった。

その日の勝利は、すべての兵たちの嘆きとなった。その日兵たちは、王が息子のために悲しんでいるということを聞いたからである。

兵たちはその日、まるで戦場から逃げて恥じている兵がこっそり帰るように、町にこっそり帰って来た。

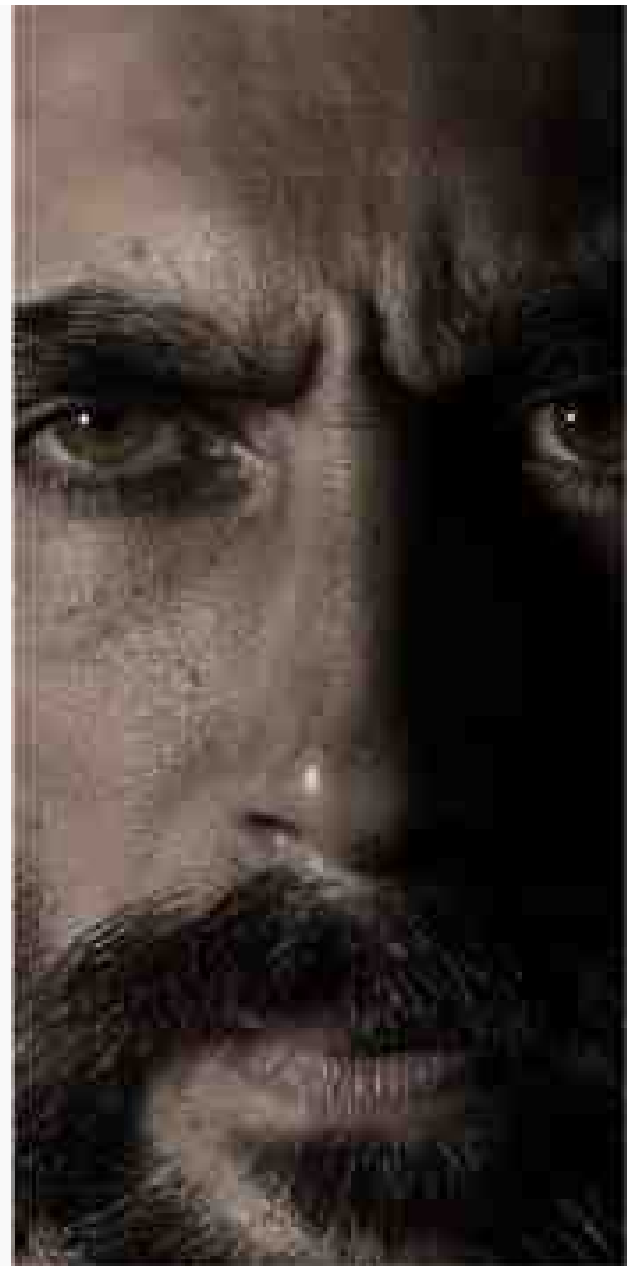
王は顔をおおい、大声で、「わが子アブサロム、アブサロムよ。わが子よ、わが子よ」と叫んでいた。



## 【ヨアブの抗議】 II サムエル19:5~6

ヨアブは王の家に来て言った。「今日あなたのいのちと、あなたの息子、娘たちのいのち、そして妻や側女たちのいのちを救ってくれたあなたの家来たち全員に、あなたは今日、恥をかかせられました。

あなたは、あなたを憎む者を愛し、あなたを愛する者を憎まれるからです。あなたは今日、隊長たちも家来たちも、あなたにとっては取るに足りないものであることを明らかにされました。今、私は知りました。もしアブサロムが生き、われわれがみな今日死んだなら、それはあなたの目になったのでしょうか。」



## 【ヨアブの脅迫】 IIサムエル19:7

「さあ今、立って外に行き、あなたの家来たちの心に語ってください。私は【主】によって誓います。あなたが外においでにならないければ、今夜、だれ一人あなたのそばにとどまらないでしょう。そうなれば、そのわざわざいは、あなたの幼いころから今に至るまでにあなたに降りかかった、どんなわざわざいよりもひどいものとなるでしょう。」

■ 王の命令に背きアブサロムを殺したのはヨアブ。

自らの非は微塵も認めず、脅迫まがいの通告

→ 際立つヨアブの支配性と残忍さ。

← ダビデの罪が招き入れた



## 【門に座るダビデ】 II サムエル19:8

王は立って、門のところ\*に座った。人々はすべての兵たちに「見なさい。王は門のところに座っておられる」と知らせた。兵たちはみな王の前にやって来た。一方、イスラエルは、それぞれ自分たちの天幕に逃げ帰っていた。

\*門は、町の行政機関、裁判所、議会。

門に座る → 王としての職務に復帰した!!



## 【言い争うイスラエル】 II サムエル19:9~10

イスラエルの全部族の間で、民はみなこう言って争っていた。「王が敵の手から、われわれを救い出してくださったのだ。われわれをペリシテ人の手から助け出してくださったのは王だ。ところが今、王はアブサロムのいるところから国外に逃げておられる。

われわれが油を注いで王としたアブサロムは、戦いで死んでしまった。あなたがたは今、王を連れ戻すために、なぜ何もしないでいるのか。」



## 【ダビデのユダへの伝言】 Ⅱサムエル19:11

ダビデ王は、祭司ツアドク\* とエブヤタル\*に人を遣わして言った。「ユダの長老たちにこう告げなさい。『全イスラエルの言っていることが、この家にいる王の耳に届いたのに、あなたがたは、なぜ王をその王宮に連れ戻すことをいつまでもためらっているのか。』

あなたがたは、私の兄弟、私の骨肉だ。なぜ王を連れ戻すのをいつまでもためらっているのか。』

\*王の命を受け、祭司の務めを果たすためエルサレムの都にとどまっていた。



## 【心動かされたユダ族】 II サムエル19:13

アマサ\*にも言わなければならない。『あなたは私の骨肉ではないか。もしあなたが、ヨアブに代わってこれからいつまでも、私の軍の長にならないなら、神がこの私を幾重にも罰せられるように。』」

すべてのユダの人々は、あたかも一人の人のように心を動かされた。彼らは王のもとに人を遣わして、「あなたも家来たちもみな、お帰りください」と言った。

\*ヨアブに代え、アブサロム軍の長アマサを任命。

➡ 裏切ったユダ族への憐れみと赦し

← 人心掌握のサプライズ人事!!



ダビデ王

伝令



アマサ

(元アブサロム  
軍の長)



## 【ヨルダン川へ】 II サムエル19:15

王は帰途につき、ヨルダン川までやって来た。  
一方、ユダの人々は、王を迎えてヨルダン川を  
渡らせるためにギルガルに来た。



## 【シムイとツィバ】 II サムエル19:16~17

バフリム出身のベニヤミン人、ゲラの子**シムイ\***は、ダビデ王を迎えようと、急いでユダの人々と一緒に下って来た。彼は千人のベニヤミン人を連れていた。

サウルの家のしもべ**ツィバ\***も、十五人の息子、二十人の召使いを連れて、王が見ている前でヨルダン川に駆けつけた。

\***シムイ** …都落ちするダビデを散々呪った。

\***ツィバ** …友ヨナタンの子メフィボシェテの僕ダビデに多くの食料を差し入れた。



## 【シムイの謝罪】 Ⅱサムエル19:18～19

そして、王の家族を渡らせるため、また王の目にかなうことをするために、渡しを整えた。ゲラの子**シムイ**\*はヨルダン川を渡って行き、王の前に倒れ伏して、王に言った。「わが君、どうか私の咎を罰しないでください。王様がエルサレムから出て行かれた日に、このしもべが犯した咎を、思い出さないでください。王様、心に留めないでください。」

\*自ら川を渡ってダビデの前に倒れ伏したシムイ。  
→これ以上ない形で、深い謝罪を表明した。



ダビデ王



ベニヤミン人  
シムイ

## 【アビシャイの怒り】 Ⅱ サムエル19:20～21

「このしもべは、自分が罪を犯したことを知っています。ご覧ください。今日、ヨセフのすべての家に先立って、わが君、王様を迎えに下って参りました。」

ツェルヤの子**アビシャイ**\*は口をはさんで言った。「シムイは、【主】に油注がれた方を呪ったので、そのために死に値するのではありませんか。」

\*将軍ヨアブの兄弟、隊長。三十勇士の筆頭。

ダビデを呪うシムイを討ち殺そうとした。



## 【ダビデの裁定】 II サムエル19:22～23

ダビデは言った。「ツェルヤの息子たち\*よ。あれは私のことで、あなたがたに何の関わりがあるのか。あなたがたが、今日、私に敵対する者になろうとすると。今日、イスラエルのうちで人が殺されてよいだろうか。私が今日イスラエルの王であることを、私が知らないとしてもいうのか」

王はシムイに言った。「あなたは死ぬことはない。」王は彼にそう誓った。

\*アビシャイの兄弟ヨアブも、シムイの死を訴えていたことが分かる。



## 【メフィボシェテ】 II サムエル19:24~25

サウルの孫メフィボシェテは、王を迎えに下って来た。彼は、王が出て行った日から無事に帰って来た日まで、自分の足の手入れもせず、ひげも剃らず、衣服も洗っていなかった。

ダビデを思うゆえ

彼が王を迎えにエルサレムから来たとき、王は彼に言った。「メフィボシェテよ、あなたはなぜ、私とともに来なかったのか。」

■ 僕ツィバは、メフィボシェテが、ダビデが都落ちしたことでサウル家が再興されると喜んでいたらと報告していた。(16:3)

ツィバの嘘が明らかに



## 【メフィボシエテの釈明】 II サムエル19:26～27

彼は言った。「わが君、王様。家来が私をたぶらかしたのです。このしもべは『ろばに鞍を置き、それに乗って、王と一緒にいこう』と言ったのです。しもべは足の萎えた者ですから。

彼がこのしもべのことを王様に中傷したのです。しかし、王様は神の使いのような方\*ですから、お気に召すようにしてください。

\* 「ダビデの足手まといになるからとどまっていた方がいい」とでも、ツィバが忠告した？

\* 神の使いのような判断力があるということ。



## 【ダビデの裁定】 II サムエル19:28～30

「私の父の家の者はみな、王様から見れば、死刑に当たる者にすぎなかったのですが、あなたは、このしもべをあなたの食卓で食事をする者のうちに入れてくださいました。ですから、この私に、どうして重ねて王様に訴える権利があるでしょう。」

王は彼に言った。「あなたはなぜ、自分のことをまだ語るのか。私は決めている。あなたとツィバとで地所を分けるのだ。」

メフィボシェテは王に言った。「王様が無事に王宮に帰られた後なら、彼が全部取ってもかまいません。」

\*メフィボシェテが来なかったのは事実。

喧嘩両成敗的、解決!!





## 【バルジライ】 II サムエル19:31-32

一方、ギルアデ人**バルジライ**\*はロゲリムから下って来た。そして、ヨルダン川で王を見送る\*のために、王とともにヨルダン川まで進んで来た。

この**バルジライ**は、たいへん年をとって八十八歳であった。彼は王がマハナイムにいる間、王を養っていた。非常に裕福な人だったからである。

\*ヨルダン川を渡って逃れ来たダビデの一行に膨大な食糧を真っ先に支援したのが**バルジライ**。ダビデ軍の兵の糧食を用意したのも彼だろう。

← 当時の儀礼

← ダビデ軍の  
スポンサー



## 【王の申し出】 Ⅱサムエル19:33～35

王はバルジライに言った。「私と一緒に渡って行ってください。エルサレムの私のもとで、あなたを養います。」

バルジライは王に言った。「王様とともにエルサレムへ上って行っても、私はあと何年生きられるでしょう。」

私は今、八十歳です。私に善し悪しが分かるでしょうか。しもべは食べる物も飲む物も味わうことができません。歌う男や女の声を聞くことさえできません。どうして、この上、しもべが王様の重荷になれるでしょう。」

最高の栄誉



ダビデ王



ギルアデ人  
バルジライ

## 【バルジライの願い】 II サムエル19:36～37

「このしもべは、王様とともにヨルダン川をほんの少しだけ進んで参りましょう。王様は、そのような報酬を、どうしてこの私に下さらないでなければならぬのでしょうか。」

このしもべを帰らせてください。私は自分の町で、父と母の墓の近くで死にたいのです。ご覧ください。ここに、あなたのしもべ**キムハム\***がおります。彼が、王様と一緒に渡って参ります。どうか彼に、あなたの良いと思われることをなさってください。」



## 【バルジライとの別れ】 II サムエル19:38～39

王は言った。「キムハムは私と一緒に渡って行けばよい。私は、あなたが良いと思うことを彼にしよう。あなたが私にしてほしいことは何でも、あなたにしてあげよう。」

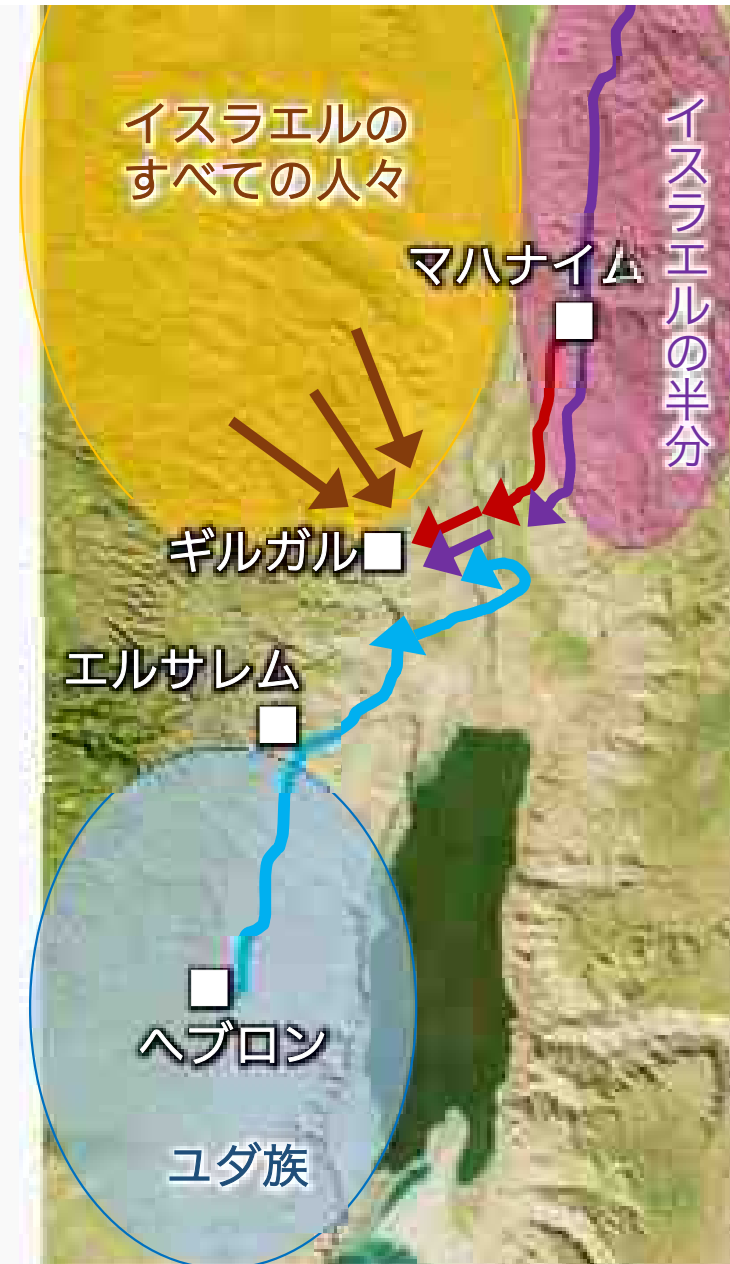
こうして、民はみなヨルダン川を渡り、王も渡った。王はバルジライに別れの口づけをして、彼を祝福した。それで、バルジライは自分の町へ帰って行った。



## 【イスラエルの怒り】 Ⅱ サムエル19:40～41

それから、王はギルガルへ進み、キムハムも王とともに進んだ。ユダのすべての民とイスラエルの民の半分が、王とともに進んだ。

するとそこに、イスラエルのすべての人が王のところにやって来て、王に言った。「われわれの同胞、ユダの人々は、なぜ、あなたを奪い去り、王とその家族に、また王とともにいるダビデの部下たちに、ヨルダン川を渡らせたのですか。」



## 【ユダ族の反論】 Ⅱ サムエル19:42

ユダのすべての人々はイスラエルの人々に答えた。「王は、われわれの身内だからだ。なぜ、このことでそんなに怒るのか。いったい、われわれが王の食物を食べたとでもいうのか。王が何かわれわれに贈り物をしたとでもいうのか。」

## 【激化する論争】 II サムエル19:43

イスラエルの人々はユダの人々に答えて言った。「われわれは、王のうちに**十の分**を持っている\*。だからダビデにも、あなたがたよりも多くを持っている。なぜ、われわれをないがしろにするのか。われわれの王を連れ戻そうと最初に言い出したのは、われわれではないか。」しかし、ユダの人々のことばは、イスラエルの人々のことばより激しかった。

**\*10/12部族**ということか。

→後に分裂 ユダ族 + ベニヤミン族 vs 十部族



後の南北分裂の  
根が現れている



## II. 分断の根・反逆者たち

サムエル記 II 20章

ヨルダン川下流域



## 【よこしまな者シェバ】 IIサムエル20:1

たまたまそこに、よこしまな\*者で、名をシェバ\*という者がいた。彼はベニヤミン人ビクリの息子であった。彼は角笛を吹き鳴らして言った。

「ダビデのうちには、われわれのための割り当て地はない。エッサイの子のうちには、われわれのためのゆずりの地はない。イスラエルよ、それぞれ自分の天幕に帰れ\*。」

\*滅びを招く邪悪さ(ギブアと同様。士師20:13)

\*七(完全数)。ここでは“全き悪”。

\*南北分裂の時にも、同じ言葉が(一列12:16)



## 【王宮にて】 II サムエル20:2~3

すべてのイスラエルの人々は、ダビデから離れ、ビクリの子シェバに従って行った。しかし、ユダの人々はヨルダン川からエルサレムまで、自分たちの王につき従って行った。

ダビデはエルサレムの自分の王宮に入った。王は、王宮の留守番に残しておいた**十人の側女\***をとり、監視つきの家を与えて養ったが、彼女たちのところには通わなかった。彼女たちは、一生、やもめとなって、死ぬ日まで閉じ込められていた。

**\*アブサロムが公然と寝た十人の側女。**



## 【アマサの派遣】 II サムエル20:4～5

王はアマサ\*に言った。「私のために、ユダの人々を三日のうちに召集し、あなたも、ここに帰って来なさい。」

アマサは、ユダの人々を召集するために出て行ったが、指定された期限に間に合わなかった。

\*“重荷”の意味。

■ 新将軍アマサの初任務。

反乱への対処は、まったなしだったが…。



## 【アビシャイの命令】 II サムエル20:6~7

ダビデはアビシャイに言った。「今や、ビクリの子シェバは、アブサロムよりも、もっとひどいわざわいを、われわれに仕掛けるに違いない。あなたは、主君の家来を引き連れて彼を追いなさい。さもないと、彼は城壁のある町に入って、逃れてしまうだろう。」

ヨアブの部下、クレタ人、ペレテ人、そしてすべての勇士たちは、アビシャイの後に続いて出て行った。彼らはエルサレムを出て、ビクリの子シェバの後を追った。

**\*アマサとの合流を待たずにアビシャイを派遣。**



## 【ギブオン】 II サムエル20:8～9

彼らがギブオン\*にある大きな石のそばに来たとき、アマサが彼らの前にやって来た。ヨアブは自分のよろいを身に着け、さやに収めた剣を腰の上に帯で結び付けていた。彼が進み出ると、剣が落ちた。

ヨアブはアマサに「兄弟、おまえは無事か」と言って、アマサに口づけしようとして、右手でアマサのひげをつかんだ。

\*血塗られた土地(II 2:12～17)

岩盤を削った巨大な貯水池があった。



## 【アマサの死】 II サムエル20:10

アマサはヨアブの手にある剣に気をつけていなかった。ヨアブは彼の下腹を突いた。それで、はらわたが地面に流れ出た。この一突きでアマサは死んだ。ヨアブとその兄弟アビシャイは、ビクリの子シェバの後を追った。

■ヨアブは、落ちた剣を左手で拾い上げ、右手でアマサの髭をつかみながら、左手に持った剣でアマサの下腹部を刺した。

→油断させ、気を逸らせ、

視界の外から一突き。

巧妙で周到、狡猾で残忍



## 【ヨアブの將軍奪還】 Ⅱ サムエル20:11

ヨアブに仕える若者の一人がアマサのそばに立って言った。「ヨアブにつく者、ダビデに味方する者は、ヨアブに従え。」

アマサは大路の真ん中で、血まみれになって転がっていた。この若者は、兵がみな立ち止まるのを見て、アマサを大路から野原に運んだ。そして、その傍らを通る者がみな立ち止まるのを見ると、彼の上に衣を掛けた。

アマサが大路から移されると、みなヨアブの後について進み、ビクリの子シェバを追った。



## 【包囲網】 II サムエル20:14～25

シェバはイスラエルの全部族のうちを通過して、アベル・ベテ・マアカへ行った。すべてのベリ人が集まって来て、彼に従った。

人々はアベル・ベテ・マアカに来て、彼を包囲し、この町に向かって壘を築いた。それは外壁に向かって立てられた。ヨアブにつく兵はみな、城壁を破壊して倒そうとしていた。

- ヨアブ軍は、アベルを完全に包囲し、城壁を破壊しようとしていた。

壊滅寸前





## 【一人の女の呼びかけ】 II サムエル20:16

この町から、一人の知恵のある女が叫んだ。  
「聞いてください。聞いてください。ヨアブに  
こう言ってください。『ここまで近づいてください。  
あなたにお話ししたいのです。』」

ヨアブが彼女の方に近づくと、この女は言った。  
「あなたがヨアブですか。」彼は言った。「そう  
だ。」女は言った。「このはしためのことばを聞いて  
ください。」彼は言った。「よし、聞こう。」



## 【女の訴え】 II サムエル20:18~19

女は言った。「昔、人々は『アベルで尋ねよ』  
と言って、事を決めました。

私は、イスラエルのうちで平和な、忠実な者の  
一人です。あなたは、イスラエルの母である町を  
滅ぼそうとしておられます。あなたはなぜ、

【主】のゆずりの地\*を、呑み尽くそうとされる  
のですか。」

\*統治機関のあるこの地方の中心地だと分かる。

\*この辺りはナフタリ族の相続地。

■女は、主への信仰と主の約束に訴えた。



聖書ではここだけ

## 【ヨアブの返答】 II サムエル20:20～21

ヨアブは答えて言った。「とんでもない。呑み尽くしたり滅ぼしたりするなど、とんでもないことだ。

そうではない。実はビクリの息子で、その名をシェバというエフライムの山地の出である男が、ダビデ王に手向かったのだ。この男だけを引き渡してくれたら、私はこの町から引き揚げよう。」

女はヨアブに言った。「では、その男の首を城壁の上からあなたのところに投げ落としてごらんにいれます。」

■ヨアブの譲歩を引き出したのは、女の信仰。



## 【反乱の終結】 II サムエル20:22

この女は知恵を用いて、民全員のところに行った。それで彼らはビクリの子シェバの首をはね、それをヨアブのもとに投げた。ヨアブは角笛を吹き鳴らし、人々は町から散って行き、それぞれ自分の天幕に帰った。ヨアブはエルサレムの王のところに戻った。

- 辺境の町の一人の女が、ただ信仰と、主による知恵だけで、巨大な軍に立ち向かい、エリコのラハブを始め、イスラエルの信仰者である女たちに連なった。



## 【要職】 II サムエル20:23~26

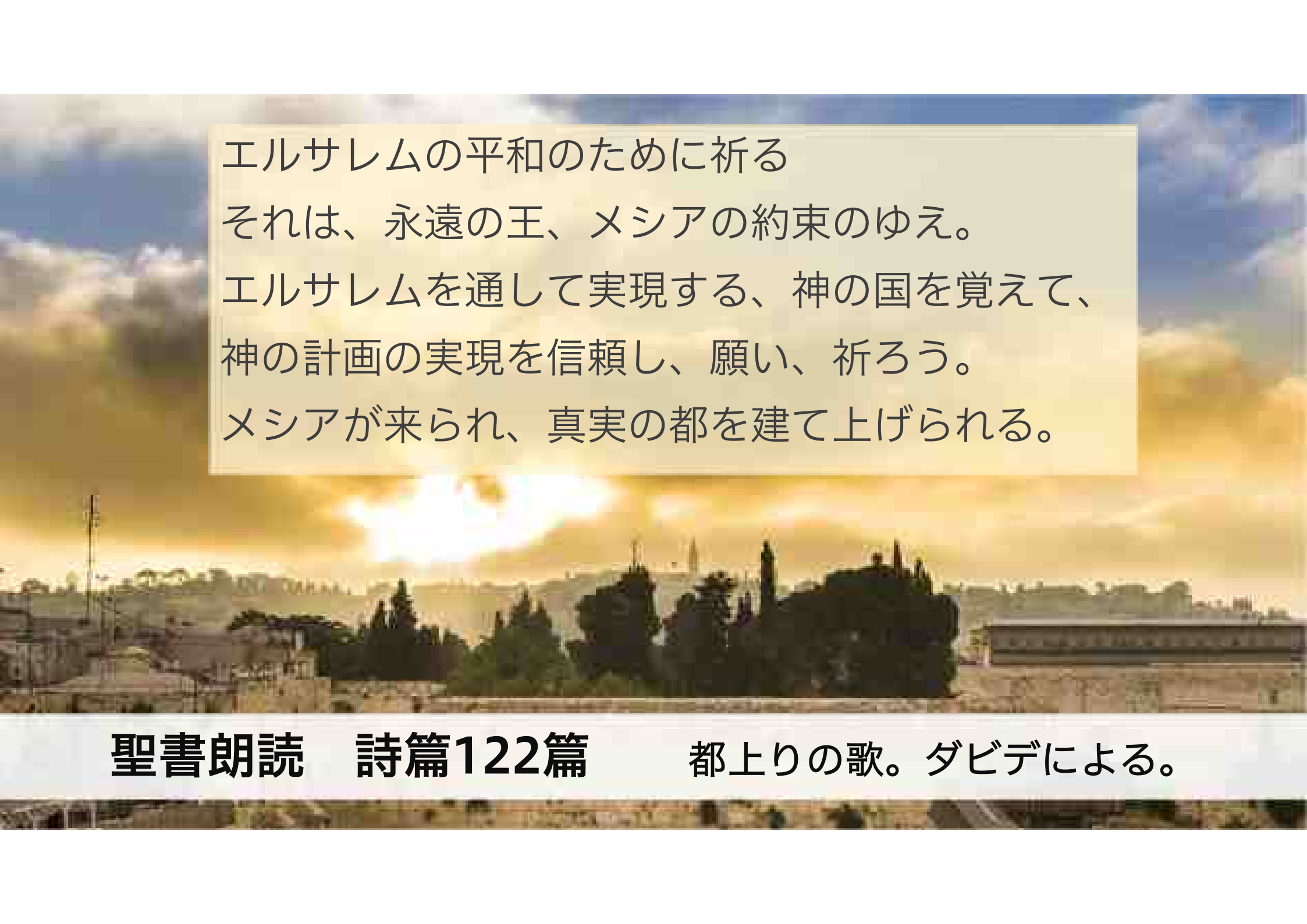
さて、ヨアブはイスラエルの全軍の長であった。エホヤダの子**ベナヤ\***はクレタ人とペレテ人の長、

アドラムは役務長官、アヒルデの子ヨシャファテは史官、シェワは書記、ツアドクとエブヤタルは祭司、ヤイル人イラもダビデの祭司であった。

\*“主が建てられた” 信仰者の名。

■ダビデは、異邦人部隊の長として、ベナヤにヨアブと対抗させた？





エルサレムの平和のために祈る  
それは、永遠の王、メシアの約束のゆえ。  
エルサレムを通して実現する、神の国を覚えて、  
神の計画の実現を信頼し、願い、祈ろう。  
メシアが来られ、真実の都を建て上げられる。

**聖書朗読 詩篇122篇**

都上りの歌。ダビデによる。

122:1 「さあ【主】の家に行こう。」

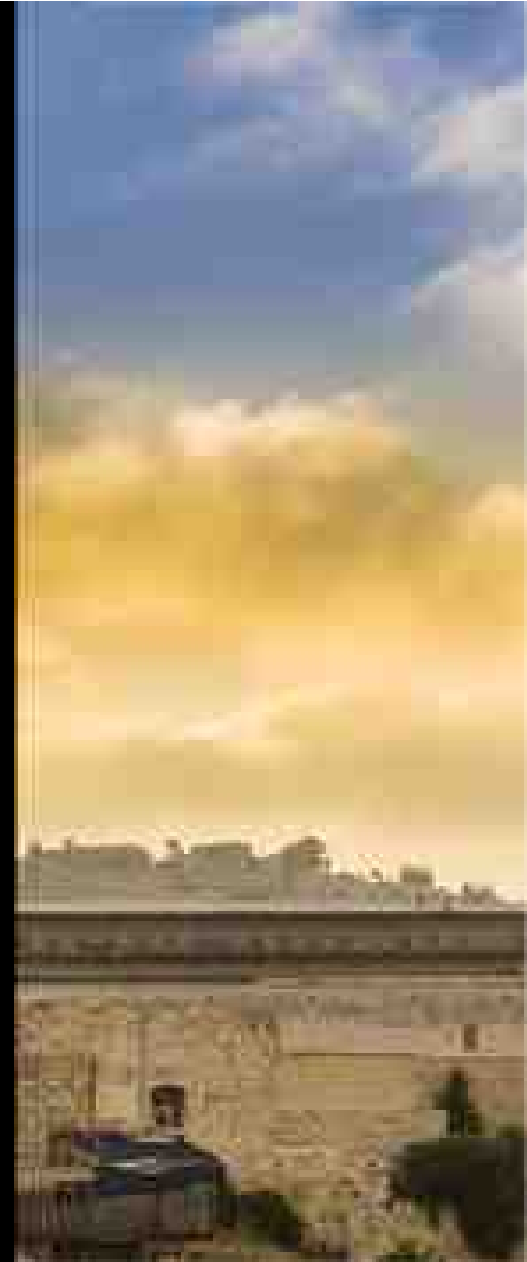
人々が私にそう言ったとき 私は喜んだ。

122:2 エルサレムよ

私たちの足は あなたの門の内に立っている。

122:3 エルサレム それは

一つによくまとまった都として建てられている。

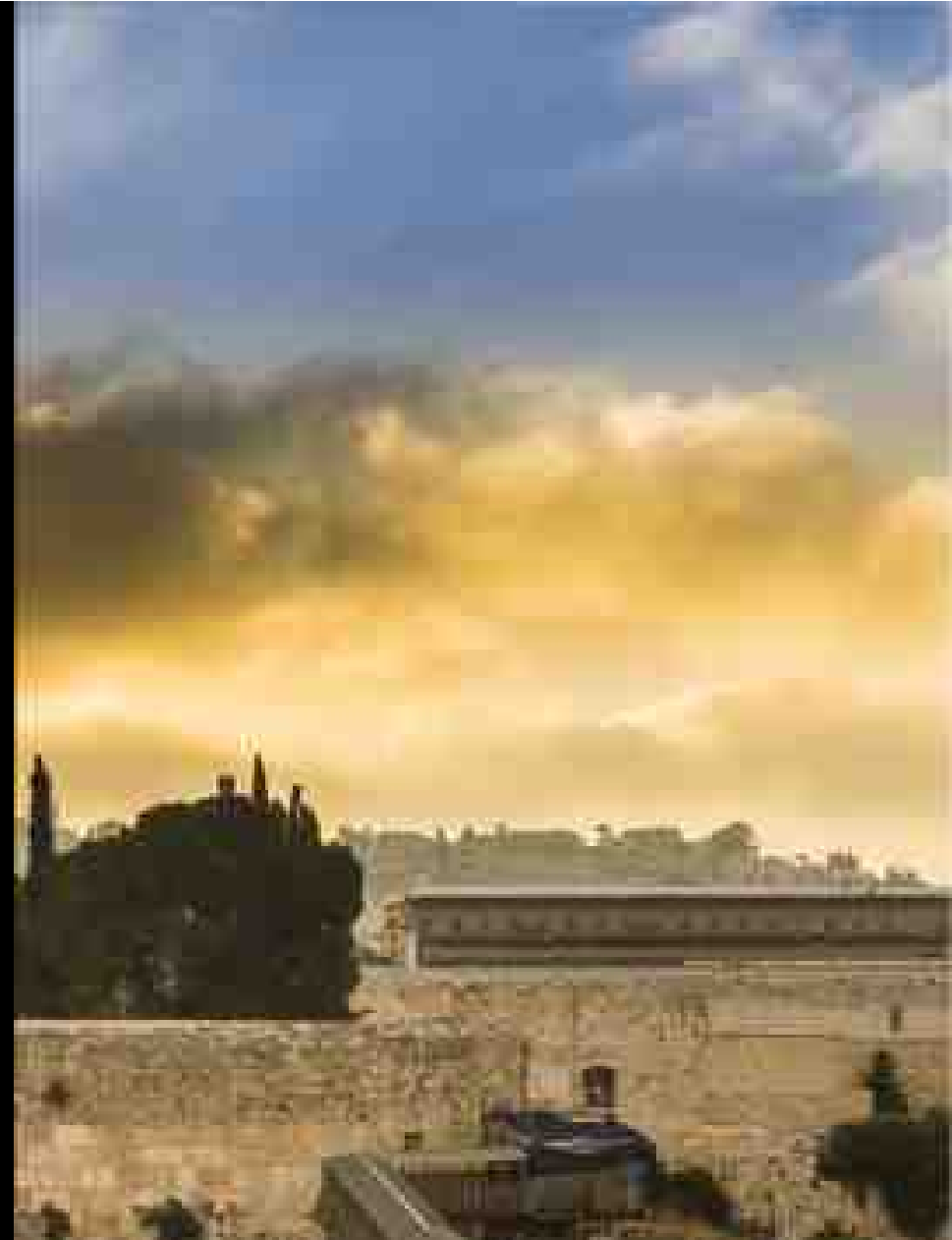


122:4 そこには多くの部族

【主】の部族が上って来る。  
イスラエルである証しとして  
【主】の御名に感謝するために。

122:5 そこにはさばきの座

ダビデの家の王座があるからだ。



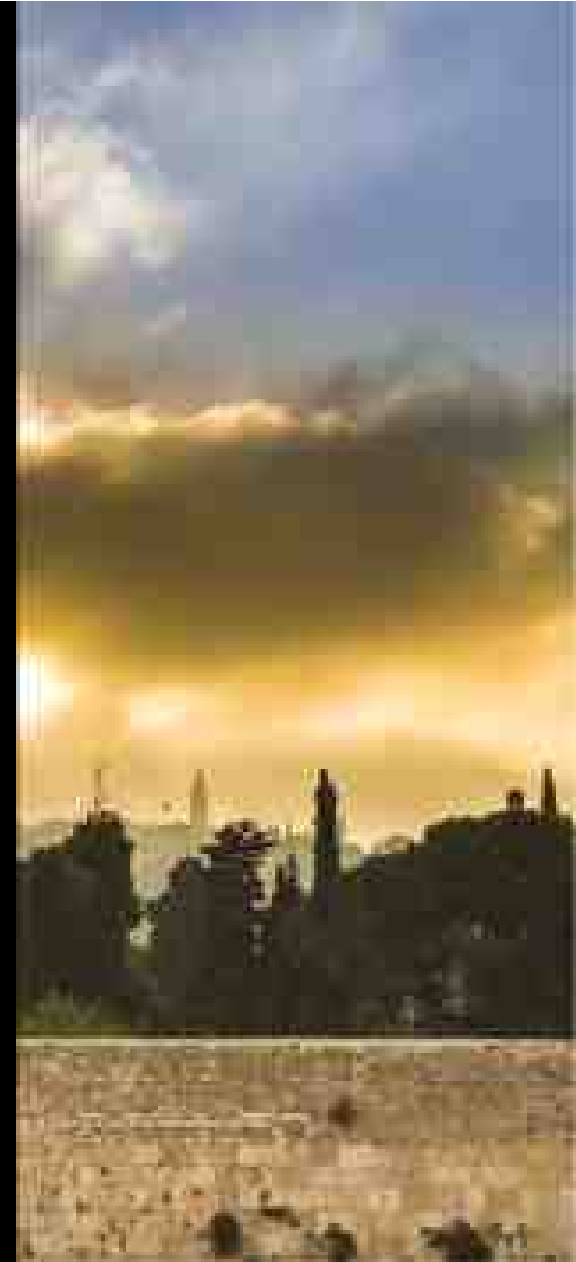


122:6 エルサレムの平和のために祈れ。

「あなたを愛する人々が安らかであるように。

122:7 あなたの城壁の内に平和があるように。

あなたの宮殿の内が平穏であるように。」



122:8 私の兄弟 友のために さあ私は言おう。

「あなたのうちに 平和があるように。」

122:9 私たちの神 【主】 の家のために

私はあなたの幸いを祈り求めよう。





### Ⅲ. まとめと適用

イスラエルの残れる者  
信仰者の歩みに学ぼう

## 【ダビデを取り巻く人間模様 王の権威の根拠】

- 帰還し、王権に返り咲いたダビデを取り巻く人間模様。  
命乞いする者、媚びる者、釈明する者。平穩を願う者。  
そして、反逆する者。さらなる謀略と暴虐に身を落とす者。  
➔ 主が定めた**絶対的な王の権威**を前に、罪ある人は、恐れ惑う。
- **イスラエルの王**が畏れられ、敬われるべきなのは、  
神が選び、油注がれた者だから。(ダビデがサウルを尊んだ理由)  
➔ 現代には適用不可能なのが、**イスラエルの王の存在**。  
今の教会指導者に置き換えるなど、もってのほか。

## 【イスラエルの残れる者、真の信仰者に学ぼう】

- 僕ツィバにたぶらかされたとは言え、  
メフィボシェテが、結果、王に付き従わなかったのは事実。  
王から一方的に与えられた**恵みに感謝**し、己の運命を王に**委ねた**。
- 辺境の町アベルの女は、今にも町を殲滅しようとする大軍を前に、  
絶大な力を持つヨアブに、**信仰と神の知恵**だけで立ち向かった。
  - ➡ 女は、イスラエル各部族に相續地を与えられた、  
**主の約束**に基づき、訴えた。
  - ➡ アベルの人々は、自らに巣くう悪を、主に従い、自ら処理した。

## 【アベルが連なる、イスラエルの信仰者の女たちの系譜】

- ヨシュア率いるイスラエルの斥候を命がけでかくまった  
エリコのラハブは、ユダの系図を継ぐ者となった。(ヨシュア2:1)
- 暴君アビメレクに石臼を投げて討ち取ったのは、テベツの女。  
(士師9:53)
- 重要な使命を帯びたダビデへの密使二人をかくまったバフリムの女。  
(Ⅱサム17:20)
- 信仰と知恵で、ヨアブ軍と交渉し、住民を説得したアベルの女。  
(Ⅱサム20:16～)

## 【あなたが遣わされたその場所で、主の戦いに参加しよう】

- 自ら戦場に向かうことはない、イスラエルの女たち。  
しかし、戦いが、彼女たちの生活の場に及んできた。
- 信仰者には避けがたく、戦いがあることを覚えよう。  
勝利の秘訣は、主の約束を信頼し、主に従い、使命を果たすこと。
- 主を畏れ、へりくだる者には、世に恐れるものは何もない。  
悔い改め、主に立ち返り、一步を踏み出す時、与えられる力がある。

**なすべきことを祈りを通して主に聴き取り、実行していこう。**

“主イエスが、十字架の苦難と死を、弟子たちに予告され、復活と再臨の希望を告げられた後に語られた言葉”

「これらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたがわたしにあって平安を得るためです。

世にあっては苦難があります。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝ちました。ヨハネ福音書 16:33」



「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、

①わたしの罪(つみ)を贖(あがなう)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信じます。

地上(ちじょう)において、すべての信仰者(しんこうしゃ)には  
戦(たたか)いがあります。

勝利(しょうり)はただ、主への信頼(しんらい)に かかっています。

絶対(ぜったい)に守(まも)られる 主の約束(やくそく)に、

確信(かくしん)をもって 委(ゆだ)ねることができますように。

ただ福音(ふくいん)を信じた信仰(しんこう)のゆえに、わたしはすでに、

真実(しんじつ)の勝利者(しょうりしゃ)とされています。

確信(かくしん)と平安(へいあん)をもって、日々の私の戦(たたか)いを

勝(か)ち取(と)っていくことができますように。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」